

## 総体準決勝 流経大柏 vs 千葉明德

流経大柏のキックオフで試合開始、流経大柏は1-4-4-2システムで長身FW⑯柳をターゲットにロングボールを多用し、FW⑱山野のスピードを活かして相手の背後を狙う。一方の千葉明德は1-5-3-2システム。FW⑳FW白をターゲットに、FW㉓岡本のスピードを活かしたカウンターを狙う。千葉明德は本来のボールを動かしながらゲームコントロールできず、流経大柏のプレスに、ボールを保持することができない。流経大柏もポジションチェンジをしながら流れを掴もうとするも、⑯柳が孤立する場面が多く、決定機を作ることができず、前半を0-0で折り返した。

後半に入り、流経大柏はFW⑱山野に替わりLSHに⑭道白が入り、⑩柚木をFWに上げると流経大柏ペースが加速する。すると43分、⑭道白がバイタルエリア左サイドで仕掛け相手を食いつかせると、中央でフリーになった⑩柚木へパス。フリーとなった⑩柚木が左足で振り抜き先制する。

56分、右コーナーキックのこぼれ球を⑫田中がヘディングシュート、⑥中田が押し込み追加点を奪う。また、77分㉓前線へのミドルパスを⑯柳がタメを作り、⑭が抜け出しシュート。スコアは3-0となった。千葉明德はFW㉓岡本に変え⑪工藤を入れ、1-4-2-3-1にして前線に枚数を掛けるも、選手層の厚い流経大柏は勢いある交替選手を活用しながらプレスを緩めず、千葉明德にチャンスを作らせなかった。

最後まで強度を落とさなかった流経大柏が決勝へ駒を進めた。

千葉経済大学附属高等学校 奥寺亮介

## 総体準決勝 市立船橋 vs 八千代

市立船橋、八千代両チームともに1-4-4-2のシステムでスタート。立ち上がりはお互いにロングボール主体で流れを掴もうとするが、ミラーゲームとなりなかなかチャンスを作り出せない。拮抗した時間が続いたが、先にゲームを動かしたのは八千代。左サイドをコンビネーションで崩しボックス内に⑦西村が侵入し、エリア内で倒されPK獲得。これを⑧吾妻がしっかりと決め八千代先制。対する市立船橋は、2トップ⑩郡司、⑮久保原が背後のスペースへ徹底してランニングをし、チャンスメイクをはかる。繰り返していた動きから相手陣内深くでスローインを獲得。ロングスローからゴール前最後は⑮久保原が押し込み同点に追いつき、前半は1-1で折り返す。

後半、市立船橋はFW⑳伊丹を投入し前線の活性化をはかる。前半以上に守備強度を高め中盤での素早い切り替えから奪ったボールは⑦太田を起点とし、素早くゴールに向かう。狙い続けた形から、⑦太田のスループアスに⑩郡司が抜け出し、GKとの1対1を冷静に決め、市立船橋が勝ち越し。八千代は自陣からボールを保持し、前進を試みるが市立船橋の高い位置からの守備を破ることが出来ない。最後までプレー強度を落とさなかった市立船橋が追加点を重ね、決勝へと進出した。

千葉県立泉高等学校 三神弘輔

## 総体決勝 流経大柏 vs 市立船橋

5大会ぶりの両者の顔合わせとなった決勝戦。市立船橋、流経大柏ともに1-4-4-2システムでキックオフ。流経大柏は、両サイドのMF⑭道白、MF⑩柚木を中心にサイドからチャンスを作り、得点を狙っていく。対する市立船橋はシンプルに前線の⑩郡司を中心とし、質の高いボールをDFラインから配給していく。一瞬の隙をついた郡司の抜け出しからクロスを上げると、これに⑪佐々木が合わせ一度は弾かれるも、こぼれ球をFW⑮久保原がシュートを放ち、市立船橋が先制点を獲得する。同点に追いつきたい流経大柏はFW⑲柳にボールを集め前線でタメを作り、一層サイド攻撃に厚みをかけるが、粘り強い市立船橋のDFラインを崩すことが出来ない。粘り強い守備を展開する市立船橋は、カウンターから精度の高いロングフィードに抜け出した⑩郡司が抜け出し、高い個人技から追加点を重ねる。その後、流経大柏は、デザインされたコーナーキックから最後は⑲柳が決め、前半スコア市立船橋2-1流経大柏で折り返す。

後半、流経大柏は前戦に⑳笠松を投入し、積極的に裏のスペースを活用していき、深いエリアからのロングスローやコーナーキックなどのセットプレーからゴールを狙っていく。しかし、市立船橋の守備強度は後半に入っても衰えず、素早い切り替えと粘り強い守備を継続し相手に得点を許さない。両チーム一進一退の攻防が続いたが、市立船橋がスローインからゴール前で粘り、最後はゴール前で狙っていた⑮久保原が押し込み、勝利を大きく手繰り寄せる。ゲーム終盤、流経大柏は④塩川を前線に上げパワープレイから1点を返し、その後猛攻を仕掛けるがこのままタイムアップ。最後まで攻守ともに高いインテンシティを保った市立船橋が千葉県総体の優勝を手にした。

千葉県立泉高等学校 三神弘輔